

2017八幡市民マラソン大会

笑顔で快走



スタートを切るランナーたち

親子ペア部門で1番にゴールをした古賀さん親子

12月3日、八幡市民スポーツ公園を発着点に「2017八幡市民マラソン大会」が開催されました。同大会は、市体育協会などで構成される八幡市民マラソン大会実行委員会が主催。ハーフマラソン、10km、3km、2kmの距離、年齢、性別ごとに15部門が設けられました。

市内外から集まった1739人のランナーたちは号砲とともに、一斉にスタート。木津川河川敷などのコースを駆け抜けました。

親子ペア部門では、3歳から小学2年生までの子どもたちと保護者141組が2kmのコースを走りました。ゴールが近くなると、



市内外から1739人 親子参加も

前を走るランナーを追い越そうと最後の力を振り絞ったり、親子で手をつないで嬉しそうにゴールしたりしていました。

親子ペアで優勝した古賀一有さん・晴弥くん親子は、「去年は5位だったので、今年は1位になれるように練習してきました。優勝できてうれしいです」と笑顔で話していました。

時代劇風動画で市をPR / 地域情報 SNSで発信

12月23日、「八幡市子ども会議」が松花堂美術館で行われ、市内の小中高生の委員が、市をよりよくするための意見を堀口市長に提言しました。

同会議は、立命館大学政策科学部稲葉ゼミと連携して毎年行われており、今年で14回目。同委員は4班に分かれ、各班で決めたテーマについて、7回にわたって調査や話し合いを行い、意見をまとめてきました。



時代劇を題材にしたPR動画を提言し、市長の意見を聞く小学生班

小学生班は、「時代劇を題材にしたPR動画」を提案。石清水八幡宮や銘菓源氏巻が源氏に由来していることから、源氏と平氏が戦う時代劇風の動画を作り、市の名産品や名所をPRすることを提言しました。

また、ほかの班からは、SNSによる参加型地域発信など、さまざまな案が提言されました。

会議に参加した男山中学校2年の内藤温生くんは「市長への提言は緊張しました。他の班の発表を見て、自分にはない考えを知れて良かったです」と話していました。

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



まちづくりについて語り合う市長と新成人たち

市長と新成人 まちづくり語り合う

12月20日、「市長と新成人との八幡市まちづくり座談会」を開催しました。

現在、策定を進めている「第5次総合計画」に次代を担う新成人の意見を取り入れようと企画し、成人式の実行委員4人と「10年後の八幡市」「まちづくりへの関わり方」など、これからのまちづくりについて語り合いました。

新成人は「地域のつながりを大切にしたい」「仕事を通じて健康づくりやまちの活性化に貢献したい」「若者が『帰ってきたい』と思えるまちになってほしい」など、それぞれの想いを話しました。

市長は「若いときから夢を持ち続けることが大切」「若いうちには地域のために時間をとることは難しいが、少しでも関心をもってもらうことが第一」とコメントするなど、終始和やかな雰囲気で見聞交換を行いました。

【8・9面に関連記事あり。第5次総合計画の中間案をご覧ください。皆さんのご意見をお寄せください。】

川口コミュニティセンターで講座

手作り「張り子戌」好評

川口コミュニティセンターで12月4日、「布の干支づくり」が行われ、13人が参加しました。

この講座は、2018年の干支にちなんで「張り子戌」を作ってもらおうと、同センターが企画。市内在住で手工芸品を制作している内田順子さんを講師に招いて行われました。



真剣な表情で布の張り子戌を作る参加者たち

参加者たちはあらかじめ型紙に合わせて切られた布を丁寧に縫い合わせていきます。そして、内田さんからの「耳から綿を詰めていくときれいに仕上がる」というアドバイスをもとに、布を裏返し、綿を詰めていくと戌の形が現れます。参加者はかわいらしい張り子戌が出来上がるのを楽しみました。

参加した北尾啓子さんは、「布で人形を作るのは初めてでしたが、楽しかったです。玄関に飾りたいと思います」と話し、他の参加者からも十二支すべて揃えたいと声上がるなど好評でした。